

MGU Chapel Letter

—第 46 号 2025 年 3 月 4 日— 発行：大学宗教センター

* 2024 年度 年間聖句 *

「人にしてもらいたいと思うことは何でも、
あなたがたも人にしなさい。」

マタイによる福音書 第 7 章 12 節



卒業・修了礼拝を忘れずに！ 3 月 17 日(月)午前 10 時から

4 年生の方にとっては、大学生活も最後の月に入りましたね。大事なイベントを忘れないようにしましょう。2024 年度の卒業・修了礼拝が、3 月 17 日(月) 10 時から礼拝堂で行われます。今回は、日本基督教団牧師・日本旧約学会会長の小友聡先生が、「生きよと呼びかける聖書の言葉」というタイトルでメッセージを述べて下さる予定です。

小友先生は 2021 年、批評家・エッセイストの若松英輔氏と旧約聖書の「コヘレトの言葉」をめぐる対話本を NHK 出版から刊行され、話題になりました。「コヘレトの言葉」は、著者が「空しい」という言葉を連発するという、一見するとあまり聖書らしくない文書ですが、先行き不透明な現代社会にこそ語りかけて来る知恵と希望を秘めています。今回の礼拝では、この「コヘレトの言葉」11 章 1～6 節が持つ魅力が語られます。社会に飛び立つ前に、聖書が与えてくれる「生きる力」を受け取りましょう。

当日は、音楽科 4 年生 2 名によるクラリネットとピアノの賛美演奏も予定されています。卒業前の最後の礼拝、ぜひご出席下さい。

【連絡先】 宮城学院キリスト教センター

TEL : 022-279-9558

Email : christ-c@mgu.ac.jp

✦ 今は重要シーズン!! ✦



大学の授業も1月末で終わり、3月のキャンパスは、学位記授与式の週を除けばあまり学生の姿もなく、ひっそりとした状態にあります。けれども、この時期は基督教のカレンダーでは非常に重要な季節です。受難節（レント）・受難日・復活祭（イースター）は、毎年この時期に来るからです。

受難節というのは、イエス・キリストの十字架上で
の死に至る 40 日間をおぼえる季節であり、今年は 3
月 5 日（水）から 4 月 17 日（木）にあたります。イ
エスが十字架にかけられた受難日は、今年はやや遅く
4 月 18 日（金）です。その翌々日の 4 月 20 日（日）
が、イエスの復活を祝うイースターになります。

イエスの十字架と復活は、聖書の中では最も重要な出来事であり、これ無しにはキリスト教は存在しません。神の御子であるイエスが十字架に赴いたことは、どこまでも人間と共に歩もうとする神の思い、そのためには自ら死の中にまで飛び込む愛の深さを示しています。その死からイエスが復活したことは、神の愛が死よりも強いこと、この愛のために人間は罪から救われ、永遠の命を受けられるようになったことを意味します。また、復活のストーリーは、たとえ一時は暗闇が勝つように見えることがあっても、最後は必ず神の義が実現するという確信をも指すものです。アメリカの公民権運動の指導者であったマーティン・ルーサー・キング牧師も、この「十字架の後には復活が来る」ことを信念とし、困難に負けずに運動を続けました。この季節は、私たちに注がれている神の思い、世界に与えられている希望を知って力を得る時です。

ちなみに。イースターというと「卵とウサギ」のイメージがありますが、実はどちらも聖書の話とは関係ありません。その由来は定かではありませんが、卵は新しい生命の象徴であるため、ヨーロッパでは古くから春の祭りなどで用いられており、そこからイースターに転用されたと言われています。ウサギについても、豊穡と生命力のシンボルだったからとされています。どちらも「新しい命」を示すものですが、これは神の愛を知って人生を新たに生き直す人間の姿を示しています。ただの可愛らしいモチーフではないのですね。真摯な気持ちでこのシーズンを過ごしましょう。（栗）